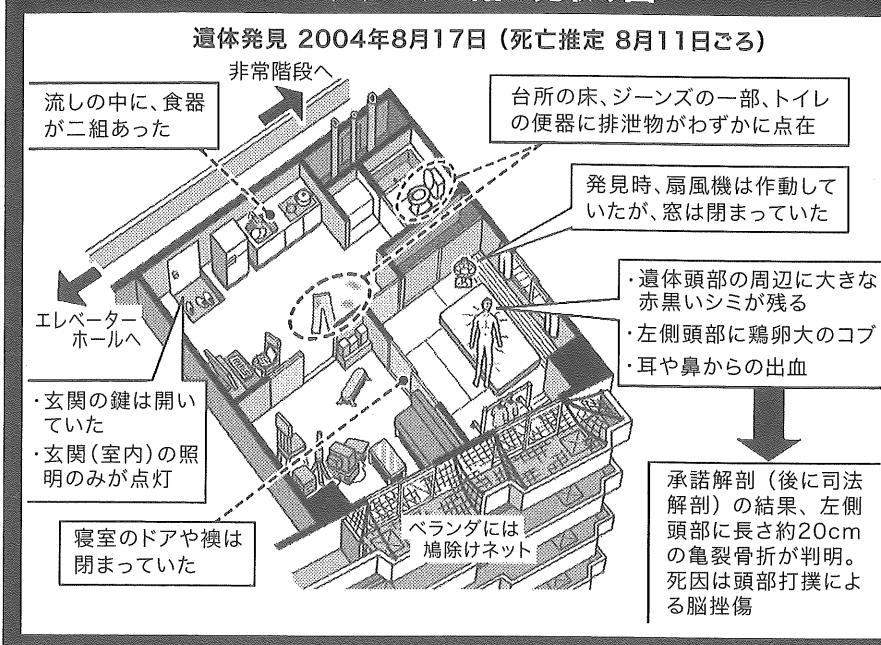


マンション6階の見取り図



——結果的に検視で頭蓋骨の骨折は分からなかつた。そうでもない……。そうですが、確かにそうですよ。頭の中までは完璧に見えるわけでもないし内臓がどうな

つっているかなんて分かるわけではないですから。しかし、『死体3と現場7』の割合の中で捜査し、事件性が薄いなどというような判断をしてゆくわけですよ」

などと分析。ペツドが死亡場所と推測され、他殺の疑いが十分にある」と結論づけた。その結果チャールズさんは、警察の説明の大半が偽りだったこと、そして、弟が事件に巻き込まれた可能性も十分に考えられるなどを確信した。

「じつは、マーシューは日本語学校に通うかたわら、数人の仲間と'02年ごろからＩＴビジネスを始めようとしていた。彼の部屋には合い鍵で仲間が出入りできる状態だったそうです」

また、現地で取材を続けると、このような話も出てきた。マーシューさんがたびたび訪れていたといふ仲間の事務所は、「03年に発生した「福岡一家殺害事件」（会社員・松本真二郎さんと妻、

前、10階に告（2審で死刑判決）がここで出会っている。カフエは暴力団の事務所が入つており、Mは暴力団と深い関係があつた。

'02～'04年ごろ、福岡ではこのカフエをはじめ、複数のIT関連企業に、暴力団が資金提供していることが公然の事実として囁かれていた」（地元紙記者）

マシューさんがこのカフエに出入りした可能性はないのか？ 仲間の事務所とカフエが同じビルなのはまったくの偶然なのか？ いずれにしても、警察がマシ

ユ一さんの周辺を捜査した
形跡はみえてこない。

“血痕”は検査されなかつた

受けるまで解剖しなかつたのか、と尋ねると、驚いたことに、次席はチャールズさんの訴えを全否定した。「要請は受けていません。私どものほうから、『行政解剖』という方法もありますよ」と、水を向けたわけです。検視を担当した捜査員に何回も確認しています」事件のあつた'04年、福岡県では4832体の死事

案があつたが、行政解剖されたのはわずか19体(約0.4%)。司法解剖も149体(約3.1%)しかない。しかし、百歩譲つて警察のほうから解剖をすすめていたとしても、根本的な問題に突き当たつてしまう。私は質問を続けた。

——行政解剖ということは、「犯罪性なし」と判断したからですよね。短時間で判断できるものですか?

「我々の中で、いわゆる『死体3、現場7』という言葉があるんです。事件性の判断というものは死体だけじゃ分からぬ。今回は室内に荒らされたり争った様子がなく、貴重品もすべてある。そしてご本人を中心傷する人もない。身長190cmを超える方ですから、人と争なかつた。そのような現状況で犯罪性ありと判断するのは非常に難しい」

——ところで、ベッドに残っていた人型の黒っぽいシミ、あれはなんですか?

「う！」
——でも、解剖する前に遺族に病死だと伝えてるじゃないですか。腐敗汁か血液かを先に調べるべきでは？
「所轄の刑事といえども、やはり専門のプロ集団ですよ。捜査のプロですよ」
——でも、医療のプロではないでしよう？
「確かにそうですよ。確かにそうですが……」

注3) 目、耳など5つの感覚器官のこと

「（科学的根拠は）ないか分からんですね。それはもう、今の私の段階では……」
——再捜査の予定は？
「『事件性はない』。だから今の時点で、『再捜査する予定はまったくない』といふのが、県警の判断です」
警察の捜査に手落ちがあったことは明らかだった。
しかし次席は最後まで、それを認めず、「事件性なし」という主張を繰り返した。
千葉大学法医学教室の岩瀬博太郎教授はこう語る。
「（ベッドの跡について）床敗汁ではなく頭部からの出血の可能性もあるので、この場合、せめてシーツの一部を保管し、問題があれば検査すべきでした。それもしていないとなれば、初めて判断されたのですね。科学的根拠もなしに。

から狼狽を見過すのです。当初、解剖せずに病死とされた時太山リンチ死事件、パロマ事件（＊注4）など、警察は何度同じミスをするばかりなのでしょうか。

今回のように、解剖して初めて外傷が発見され、事件性が疑われるることはよくあります。犯罪性の有無は警察が現場で勝手に決めることではなく、解剖結果と同時に捜査結果から総合的に判断されるべきです」

平成18年版の「犯罪白書（法務省）によると、日本の殺人事件の検挙率は、96・6%を誇っている。しかし、その背景には、今回のように安易に「事件性なし」と判断され、真相が闇に葬られてしまつたケースもあるのだ。はたして検査率の分母となる、殺人の認知件数 자체が正しいのだるもあるのだ。

うか。そもそも司法解剖率3・8%という最低レベルの国が、殺人の検挙率の高さを自慢したところで、まったく無意味なのだ。

マシューさんが亡くなつて今年の夏で4年。捜査とも呼べない杜撰な対応をしてきた県警に、これ以上の捜査を要求することは、もはや意味のないことだといふことを、チャールズさんは誰よりも理解している。

「多くの日本人が、何もわからぬまま泣き寝入りを強いられていることでしょう。死因を明らかにすることは、残された家族のためだけではなく、社会のためになることなのに……」

A black and white portrait of a man with short hair, wearing a light-colored shirt. He is resting his chin on his right hand, looking slightly to the left of the camera. The background is a plain, light-colored wall.



注4) パロマ社製瞬間湯沸かし器の不具合によって、全国で計15名が一酸化炭素中毒死した事件。¹⁸88年、北海道で起きた死亡事故で、警察が被害者の死因を心不全と判断したため、湯沸かし器の危険性が顧みられることなく、被害は拡大した。